

卒業生インタビュー

愛知淑徳学園創立120周年記念祝典・
コンサートにご出演くださった卒業生の
方々からメッセージをいただきました。

「好き」を磨いて、
自分の翼を大きく広げよう。

努力の大切さを学んだ
愛知淑徳での日々

愛知淑徳学園創立120周年記念

祝典・コンサートに出演させていただき、
卒業生として非常に光栄なことだと
感謝しています。愛知淑徳高等学校を
卒業してずいぶん経ちましたけれど、
在校中に会った友人たちとのつながり
や、培われたものは、私の宝物。水泳や
マラソンなどスポーツが盛んな、文武
両道をめざす愛知淑徳で過ごし、努力
の大切さを学びました。フォークギター
クラブや写真クラブで活動したことも
良い思い出です。おとなしい女の子で
したが、高校生になってすぐ「歌の道に
進もう！」と心に決めて、一生懸命な
毎日でした。

自分の気づかないところで
淑徳魂が生きている

卒業後、歌手としてデビューを果たし、

芸能界に入っても真面目に頑張ろうと
努力を重ねました。今にして思えば、その
根底にあるのが「淑徳魂」だったのかなと
思います。自分でも気づかない何気ない
行動や考え方に、愛知淑徳で学んだことが
生きていて、よりよい方向に進む道しるべ
になったのでしょうか。

母校とつながるきっかけになったのは、
東日本大震災の復興支援活動です。私は
長年のアメリカ生活で学んだボランティア
精神を生かし、東日本大震災の被災地の
皆さまに向けて長期的な援助をしていま
うと日本全国の仲間と活動が続けていま
す。その仲間の一人である同級生の服部
恭子さんの働きかけで、愛知淑徳の生徒
たちと一緒に、2013年の夏にチャリ
ティーコンサートを開催しました。かつて
自分が着ていた制服の生徒たちと「翼」
を歌い、「ああ、私も愛知淑徳の卒業生
なんだな」と実感。嬉しさも感じました。

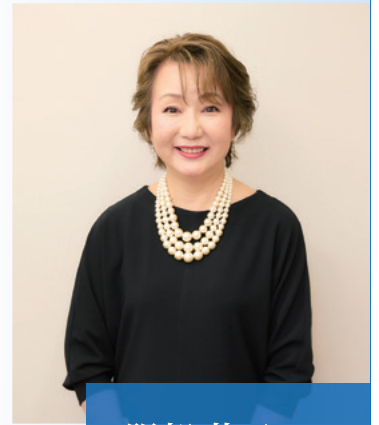
「好き」を見つけよう

高校生のときはスカート丈を注意さ
れるなど厳しい校則に窮屈さを感じてい
ましたが、そんな「規則の中で生きる
時代」を経て社会に出ると、「自分でルー
ルをつくる時代」がきます。自分のこと
を自分自身で律しないといけません。
そのときになって、窮屈さの中で自分と
いう存在を見極め、「何か」を掴むことが
大切だったのだと気づきました。人は
それぞれ、輝く「何か」を持っています。私
の場合は、大好きな「歌」。歌うことで
さまざまな場所を旅して、さまざまな人
と出会うことができました。自分の好き
なもので道を切り拓くことができたら、
人生はOK。愛知淑徳で学ば後輩の
皆さんも、「好き」を見つけて頑張つて、
未来を広げていきましょう。



八神 純子さん

シンガー・ソングライター



服部 恭子さん

フリーアナウンサー

思いきって駆け出して 自分らしい明日をひらこう。

祝典・コンサートに企画から携わり、愛知淑徳での日々が懐かしく思い出されました。バドミントンや乗馬、テニスなどのクラブ・同好会、学校行事、遅刻しそうな朝には辛かった坂道……。女子校では珍しい「質実剛健」という校訓のもと、真面目に努力し、あきらめない気持ち「淑徳魂」を磨くとともに、信頼できる友人たちと出会った6年間で、私にとって財産であり、アナウンサーの仕事をする上でも大きな支えとなっています。

「行動しないで後悔するよりも、行動してから反省しよう」が私の座右の銘。失敗は伸びしろだから、思いきりやってみればいいと、後輩の皆さんに伝えたいですね。努力していると誰かが見ていてくれますから、夢をあきらめず、走り続けてください。人生の中で、学生時代はとても貴重な時間です。愛知淑徳での毎日を楽しみましょう！



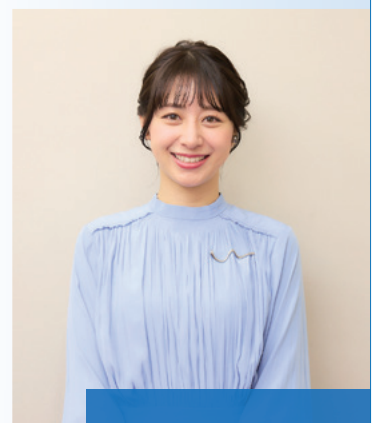
鶴美 舞夕さん

宝塚音楽学校ダンス講師、
宝塚歌劇団振付助手

淑徳魂は、チャレンジする心。 それぞれの道で共に輝く。

今回、後輩たちと一緒に舞台をつくる機会をいただき、とても嬉しかったです。皆で意見を出し合い過ごした時間は、世代を超えて繋がりを感じられ、本当に楽しく一瞬で青春時代に戻りました。そして、祝典を通して母校の歴史に触れ、改めて小林清作先生の思いを感じられる機会をいただけたことに感謝しています。

私が宝塚の舞台に立つ夢を最後まで諦めなかったのは、「淑徳魂」のお陰です。失敗したとしても諦めずチャレンジする心を忘れなければ、どんな困難なことも乗り越えられると私は信じています。後輩の皆さんも学園生活で自然と育まれる「淑徳魂」を力に、自信をもってそれぞれの道を突き進んでください。私も皆さんに負けないうように、「淑徳魂」を忘れず一生懸命生きていきます！



林 美沙希さん

テレビ朝日アナウンサー

愛知淑徳での経験、学びが 今の私につながっている。

自分を育ててくれた母校に少しでも貢献できたいという思いで、祝典・コンサートの総会司会という大役を務めさせていただきました。吹奏楽クラブの顧問としてお世話になった高井直美先生にお声をかけていただき、とても嬉しく思っています。

私は「負けず嫌いだよね」と言われることが多いのですが、ちょっとしたことではへこたれませんし、泣くこともあります。体力・気力が必要となるアナウンサーの仕事を続けてこられたのも、愛知淑徳で忍耐力を鍛えたからだと感じています。先生方が温かくも厳しくご指導くださって、部活動・学園祭、体育祭などで積み重ねた「チームで目標に向かって頑張る経験」が、社会人となった今の自分にも活きています。後輩の皆さんも、何事にも真剣に取り組み、さまざまな人の言葉を吸収して、自分がめざす未来へ進んでください。